

# 大銀杏

第53号  
令和6(2024)年  
3月1日  
藤嶺学園藤沢  
中学校・高等学校  
新聞部  
(高校)  
井上晴道 井上晃喜  
榎山翔太 荒嶋航成  
高橋 新 水野 真  
野田 諒 細貝 陽  
田中湧大 植竹隼也  
経澤悠希 稲生海風  
川村一樹 高橋航之介  
古谷貴一 長谷川望人  
(中学校)  
池田晃太郎 湖山武司  
村瀬弘旭 石崎航成  
題字 東山右徹先生

## 第76回卒業証書授与式 御卒業おめでとうございます

3月1日講堂にて第76回卒業証書授与式が挙行される。直前に先生方から卒業生への贈る言葉を寄せて頂いた。卒業生の先輩方へ卒業おめでとうございます。

【川村 写真村瀬】



### ご卒業おめでとうございます！

高校3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！  
友人と過ごした笑顔あふれる瞬間、部活の試合で負けて涙するほど悔しかった時、逆に勝利して歓喜した時。藤嶺藤沢で過ごした6年間、3年を振り返れば、様々な想いが去来するのではないのでしょうか。いずれにせよこの藤嶺台でのかけがえのない時間は卒業式をもって終了となります。  
皆さんは新たな道を明日から歩み始めることとなりますが、本校で経験したことは必ずや糧となり皆さんの歩みを支えてくれるはず。 「勇猛精進」「質実剛健」という二つの校訓を新たな場所でも忘れずにいてください。そうすれば、必ずや他人から認められる存在になるはず。新たなステージでも輝いてほしいと心から願っております。

(高校教頭 香西 義之 先生より)



### 「あるべきようは」

高校3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの学年は、中学3年生の4月～5月に「全国一斉休校」を経験し、引き続きコロナ禍により中3夏の運動部の大会がすべて中止となった世代です。高校入学後も2年生までは、制約の多い学校生活を送り、思い悩む日々もあったのではないのでしょうか。しかし、そのような状況にもかかわらず、皆さんは勇猛精進することで困難に打ち勝ってきました。そして、このたび卒業式を立派に迎えたわけですから、自分を大いに褒めてあげていいと思います。  
さて、卒業生の皆さんは、これから変化の激しい、変化の予測が付きにくい社会を生きていくこととなります。そのような社会だからこそ努力と忍耐が必要であることは言うまでもありません。そして、これから皆さんが進んで行く道筋の途上で役に立つであろう言葉を贈ります。それは、「あるべきようは」です。

平安時代から鎌倉時代初めの僧で明恵(みょうえ)上人という方がいました。紀伊に生まれ、文覚上人に師事し、16歳で東大寺で受戒後、主に華嚴を学んだ僧です。法然上人の「選択本願念仏集」を批判したそうだから、浄土宗や時宗としてはあまり喜ばしい方ではありません。それはさておき、明恵述とされる『明恵上人遺訓』に「人は阿留辺幾夜字和と云う七文字を持つべきなり。僧は僧のあるべき様、俗は俗のあるべき様なり。」という一説があります(もちろんまだ文は続きます)。これは、人それぞれの境遇・能力・職業などにおいて、その時その場において「どのようにあるべきか」という本来あるべき理想像を自身に問いかけ、その答えに沿うように生きようという教えです。

縁や巡り合わせによって、いかようにも形が変わっていく人生でありますが、「あるべきようは」という問いかけを自らにすることで、縁や巡り合わせに翻弄されることもありながら、最善の道を選べる人生となっていくことでしょう。

卒業生の皆さんの行く末に幸多かれと心から願っています。  
(校長 林 学 先生より)



### 元気になる名言集

これからの人生の中で、大きな試練に遭遇したり、大きな壁にぶち当たったりすることが必ずあります。そんな時に心強い存在になるかもしれない以下の名言を卒業にあたり贈ります。  
・明日のことを思い煩うな。明日は明日でまた悩むのだから、二度も同じことに戸惑う必要はない。  
・裏切りたくない、誰よりも自分を。見捨てたくない、一生背負わなければならない自分という存在を。  
・降りかかった困難を避けるものは「下」。降りかかった困難を克服するものは「中」。降りかかった困難に自ら立ち向かい打ち克つものは「上」。  
・何より輝かしい栄光は、一度たりとも失敗しないことではなく、失敗するたびに立ち上がることだ。  
・毎日生意気になってやろう、大言壮語も吐いてやろう、最後に笑って見せよう、主役を思い知らせてやろう。  
・努力した者が成功するとは限らない。しかし成功した者は皆努力している。  
(事務長 荒 生朗 先生より)



### 「すべてのことに意味がある」

高校3年生134名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この3年間いろいろな経験ができたと思います。さて、藤嶺藤沢への入学や私との出会いは単なる偶然ではありません。必然なのです。すべてのことにそれぞれ必ず意味があると思っています。これから出会う人や出来事も君たちに必要であり、必然なのです。これらすべてのことに感謝し、意味を見出して、自分を高めていってください。これからの活躍に大いに期待しています。  
(学年主任 西山 正宏 先生より)



### 「ご卒業おめでとうございます」

中高時代を男子校で過ごした感想はそれぞれ違うことでしょう。しかしながら、貴重な経験となったことは間違いありません。藤嶺台で出会った仲間たちを今後も大切にしてください。  
先日、卒業生2名が中学校の職員室を訪れてくれました。その2名の生徒は、「6年間ありがとうございました。中学時代はご迷惑ばかりおかけしてすみませんでした」と、感謝の気持ちを私に伝えて来てくれたのです。立派に成長してくれた姿に目頭が熱くなってしまいました。  
藤嶺での茶道教育を通して育んだ心は、これからの皆さんの人生をしっかりと支えてくれるはず。そして、多くの人から応援される青年になってください。健闘をお祈り致します。

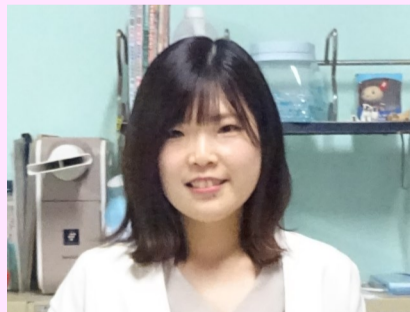
(中学教頭 廣瀬 政幸 先生より)



### 「ご卒業おめでとうございます」

皆さんは、様々な制限のある学校生活を乗り越え、特別な高校生活を経験しました。お互いがマスクをし、顔半分が隠れながらの学校生活でコミュニケーションをとるのが難しい時期もあったと思います。しかし、経験したことは将来どんな困難にも立ち向かう力となることでしょう。  
私は卒業生に贈る言葉として、いつも「笑顔忘れないで」としています。これからはいろいろなことがあるかもしれませんが、笑顔は自分もですが、周りの人も優しい気持ちにしてくれます。ぜひ、優しい気持ちで日々を過ごしてください。  
これからの更なる飛躍を期待しています。応援しています。  
(養護教諭 古川 真理子 先生より)

編集後記 卒業生の皆様、これまで新聞部へのご協力を頂き有難うございました。今後も「大銀杏」最新号は学校ホームページへアップされますのでお読み頂けますたら幸いです。



### 「素直な心を大切に」

高校3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。藤嶺藤沢で過ごした3年間には、楽しかったこと、嬉しかったこと、悔しかったこと、悲しかったこと、たくさんの思い出があると思います。1年生の頃は新型コロナの影響もあり、行事や部活に思うように打ち込めない日々だったように思います。それでも段々と活気を取り戻してきた学校生活の中で、前年度の経験が少ない中、全力で行事に取り組む姿はとても素敵でした。また保健室で見せてくれた正直な、姿や感情は、養護教諭として接する中で嬉しいことの一つでした。  
卒業後も、他人との出会いを大切に充実した毎日を送ってください。応援しています。  
(養護教諭 田中 梨菜 先生より)



### 祝 卒業

私が高校を卒業した1985年は東西冷戦の最中で、自分達の将来は人類全体の未来と同じく偶発的な核戦争であつという間に消し飛んでしまうものだという暗い予感がありました。それから数年間のうちに冷戦終結という劇的な変化が訪れることは知る由もありませんでした。諸君が卒業する今の世界は、再び暗い影に覆われているように見えます。しかし悲観することなく、土壇場で人類は賢い選択をすることを信じて、怖れることはなく、消極的にならず、自分の人生をより良いものにできるよう勇猛精進して下さい。諸君との授業は私の教員生活において最も幸せな温かい思い出の1つです。ご多幸を祈ります。  
(教務主任 古川 心平 先生より)



### 「ご卒業、おめでとうございます」

卒業生の皆さん、本を読みましよう。物語(小説)を読みましよう。本の中にはとてもたくさんの、いろいろな人が存在しています。実在の人から架空の人まで。だから、きっと見つかります。自分を元気にしてくれる「言葉」をくれたり、困ったときや辛いときにも寄り添ってくれる「友人」が。  
本をたくさん読んで、心の中にも友だちをいっぱいつくって下さい。  
(司書教諭 津久井 美江 先生より)

